

研修No. 9 4

2022年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023年3月31日
研究・研修課題名	島根大学二次救命処置コース/ICLS指導者養成ワークショップ
研究・研修組織名(所属)	院内救急・合併症対策支援センター
研究・研修責任者名(所属)	下条芳秀(院内救急・合併症対策支援センター)
研究・研修実施者名(所属)	下条芳秀(院内救急・合併症対策支援センター)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	遠藤篤也、鴨山桂子、小村悠太(看護部)、阿部啓太、松岡冨(高度外傷センター)
学会名(会期・場所)、認定名等	ICLS インストラクター
演題名・認証交付元等	
取得日・認定期間等	2023年3月5日
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

① 目的

当院では、2019年4月に予期しない心停止を防ぐ目的でRapid Response System (RRS) が構築された。RRS構築後、ハリーコール数は減少傾向にあるものの予期しない心停止は過去3年間で47例であった。ICLSコースは、急変の第一発見者となる看護師を中心とした院内スタッフの蘇生能力の向上を目的としている。

② 方法

ICLSコースはクリニカルスキルアップセンターにて約8時間/回で開催している。現在インストラクターは医師7名(高度外傷センター、救命救急センター、放射線治療科、呼吸器・化学療法内科)と看護師1名で構成される。しかし、インストラクターが少なく年間1から2回の開催に留まっているため、インストラクターの育成が急務である。インストラクター資格取得には日本救急医学会認定のICLS指導者養成ワークショップ受講が必須である。

③ 成果

2023年3月5日(日)にクリニカルスキルアップセンターにて第1回島根大学病院ICLS指導者養成ワークショップを開催した。講師に久留米大学医学部救急医学講座/大牟田市立病院救急科の宇津秀晃先生をお招きし、遠藤篤也、鴨山桂子、小村悠太(看護部)、阿部啓太、松岡冨(高度外傷センター救命士)の5名が受講した。この受講により看護師3名はインストラクター資格を取得した。また、救命士2名は二次救命処置コースで残り2回インストラクターアシスタントとして参加すれば同じくインストラクター資格を取得できることとなった。院内のICLSインストラクター増加により、次年度のコース開催が増加し、看護師を中心とした院内での蘇生レベルに向上するものと考えられる。